

FRB、量的緩和の縮小を検討

ポイント① FRBは23年に利上げの見通し

6月15、16日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）では、2023年中にゼロ金利政策を解除する可能性が示唆されました。ワクチン接種進捗に伴う米国経済の正常化などを受け、FOMC参加者の経済見通しが見直され、2023年中に政策金利の引き上げを見込む参加者が18人中13人と、前回3月の7人から増加、過半数を越えました。

一方、当面の政策については、FF（フェデラルファンド）金利の目標は0～0.25%、資産購入ペースも月額1,200億米ドルに据え置かれました。

ポイント② 2022～23年見通しは小幅修正

FOMCでは、経済成長率、雇用情勢、個人消費、インフレ見通しなども発表されますが、今回の修正では足元の2021年分こそ大きく修正されたものの、2022～23年分は小幅な修正に留まりました。特にインフレ率については、2021年は3.4%への加速が予想される一方、2022～23年には再び2%程度に戻るとされており、FRB（米連邦準備制度理事会）が強調する「インフレ上昇は一時的」との主張は維持されているようです。

ポイント③ 米マーケットの反応は限定的

FOMCの結果はタカ派シフトとなりましたが、16日の米金融市場の反応は限定的でした。米10年債利回りは上昇したものの、1.6%弱と春先に付けた1.7%を下回っています。米株式市場も軟調でしたが、金利上昇に弱いとされるナスダックは小幅下落に留まりました。米ドル円相場も110円台半ばと春先に付けた水準程度です。市場参加者は今回のタカ派シフトをある程度予想していたため、市場の反応が限定的に留まったものと考えています。

図1：FOMC参加者の経済見通し

(単位、%)

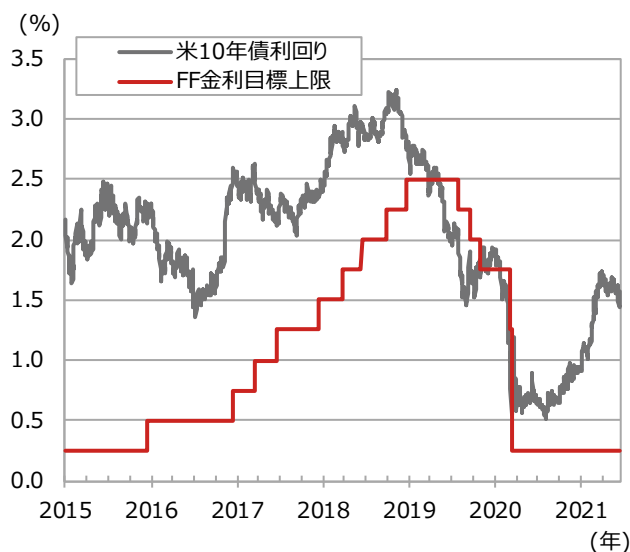
	予測時点				
		2021	2022	2023	中長期
実質GDP ¹	21年6月	7.0	3.3	2.4	1.8
	21年3月	6.5	3.3	2.2	1.8
失業率 ²	21年6月	4.5	3.8	3.5	4.0
	21年3月	4.5	3.9	3.5	4.0
個人消費支出 デフレーター(総合) ¹	21年6月	3.4	2.1	2.2	2.0
	21年3月	2.4	2.0	2.1	2.0
個人消費支出 デフレーター(コア) ^{1,3}	21年6月	3.0	2.1	2.1	
	21年3月	2.2	2.0	2.1	
FF金利 ⁴	21年6月	0.1	0.1	0.6	2.5
	21年3月	0.1	0.1	0.1	2.5

(注) 1：第4四半期の前年同期比 2：第4四半期平均値
3：エネルギー、食料品を除く 4：年末または中長期の目標レンジ中央値

(出所) FRB資料より野村アセットマネジメント作成

図2：米国の政策金利と10年債利回り

期間：2015年1月1日～2021年6月16日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント

6月24日	米GDP（国内総生産、1-3月期、確報値）
6月25日	米個人所得、個人消費支出、個人消費支出デフレーター（5月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。